

事業報告書

【地域を知り、地域に生きる「女と男とみんなのチカラ】

～都道府県版ジェンダー・ギャップ指数結果から見る沖縄県の姿～】

日時	令和6年6月29日（土）受付13:30 オープニングイベント 13:30 講座 14:00～16:00 ～ 16:00～17:00 ているる交流会
目的	政治分野における男女共同参画の推進に関する法律の意味や根拠を理解する中で、都道府県版ジェンダー・ギャップ指数からみた「沖縄県の姿」から「社会課題の解決」を図るために、皆さんと共に考えます。
対象	関心のある方
講師	片山 善博 氏（大正大学地域構想研究所 所長 元総務相・元鳥取県知事）
会場	沖縄県男女共同参画センター 1Fホール
定員	200名
参加者数	125名
講演内容 (概要)	<p>【オープニングイベント】</p> <p>令和3年度全国高等学校総合文化祭で最優秀賞・文部大臣賞を受賞した、県立南風原高校郷土文化コース生の皆さん、「四つ竹」「御願綱（うがんづな）」の琉球芸能を披露しました。</p> <p>【男女共同参画講座】</p> <p>今回のテーマである都道府県版ジェンダー・ギャップ指数に関連し、片山氏が鳥取県知事時代におこなった「性別による職務経験の偏り」を是正した取り組みを述べられました。</p> <p>具体的には、30年前に鳥取県の総務部長へ就任した時は、県庁内での管理職（課長職以上）のほとんどが男性で、女性の多くが「庶務職」である実態を知り、その人事配置によってつくられた「能力差」を改善する必要性を痛感し、女性の職務経験の拡大を図ったことです。</p> <p>知事に就任した際には、これまで全員男性職員であった財政課の予算査定部門に、女性職員を3割配置し、秘書課については、職員配置を男女半々としましたが、男性職員たちは、秘書課の男性職員にしか相談せず、秘書課を全員女性職員としたところ、男性職員も徐々にその「しきみ」に順応し、反発が薄らぎ、固定的役割観念が改善されていった。という実際に、取り組んだ事例を説明されました。</p> <p>また知事退任の際には、庁内女性管理職の会から「知事の退任と一緒に、私たちの会も解散となる。それは女性管理職が特別でなくなった、男性管理職とほぼ同様になったから」とのはなむけの言葉に、とても感激されたとのことです。</p> <p>最後に女性が社会進出するという事は、男性は家庭・地域社会で役割を担うことであり男性が「家庭内進出」することが必要であると話されました。</p> <p>【ているる交流会】</p> <p>講演会後の参加者交流を目的に、県内女性起業家による商品販売・活動紹介をおこないました。出店者は①チャタンハーバーブルワリー&レストラン②CAFÉ ソイラボ③沖縄ガールズスクエア④Joy工房と茶屋さし草屋⑤(公財)おきなわ女性財団の5か所です。</p> <p>参加者と出店者がそれぞれ、商品購入や活動について情報交換を行い、交流されました。</p>

参加 者の声	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすいお話をありがとうございました！片山先生はじめ、先人のみなさまが改革してくださって、今があるんだと感謝の気持でいっぱいです！ とても楽しくお話を聞かせて頂きました。特に人事配置の際、大事な仕事は男の仕事には笑ってしまいました。本日はありがとうございました。 沖縄は今だに、男尊女卑が強いと思っていて、高齢者女性、若年女性の状況はなかなか困難だと思うので、その女性たちが生きやすい社会を作るために、どうしたらしいのかなと・・・。 遠いところありがとうございました。いろいろなアイディアをいただき、活用できると思いました。 なぜアンフェアと気づけるようになったのか、片山氏は誰に影響を受けたのか知りたいと思いました。
	(一部抜粋)
質疑 応答	会場からの質問の一部を紹介します。
質疑 応答	Q：市町村の審議会等に、将来の市民である「高校生」を委員とすることについて、どう思われますか？
質疑 応答	A：近年特に、将来の視点に立った行政運営が必要なので、将来の市民である高校生を委員にするという試みもあります。また米国ボストン市では、教育委員会の委員の一人を高校生から選任することにしています。
	(一部抜粋)
写真	 
写真	<p>▶ご講話の様子：片山 善博 氏</p> <p>▶会場の様子</p>
写真	  
写真	<p>▶オープニングイベント 「四つ竹」</p> <p>▶ているる交流会の様子</p>
主催等	沖縄県・(公財) おきなわ女性財団